

京都ユネスコ

2022年（令和4年）1月号

編集・発行 京都ユネスコ協会事務局 京都市南区東九条東山王町27 元京都市立山王小学校内



1947年11月27日、日比谷公会堂で開催の第1回ユネスコ運動全国大会のチラシ

日本はユネスコに加盟して71年目を迎えます。

74年と2カ月前のこのチラシには、主催は仙台・大阪・京都・神戸ユネスコ協力会と記載されています。1947年7月19日 仙台ユネスコ協力会が生まれ、次いで1947年9月18日 京都ユネスコ協力会が生まれました。

ごあいさつ

京都ユネスコ協会 会長

相 大 二 郎

明けましておめでとうございます

京都ユネスコ協会の皆様にはお元気に新年をお迎えのことと存じます。
この二年間コロナとお付き合いをしてまいりましたが、今年こそは何とか切り抜きたいと思いをします。

さて、昨年はユネスコ運動全国大会が12月5日に大阪の桃山学院教育大学のエレノアホールで開催されました。京都からは大勢の方が誘い合って一緒に参加しました。

開会式の来賓挨拶において文科省国際統括官の田口康氏は本誌表紙にあるチラシを画面いっぱい映写で提示し、「当時の民間ユネスコ運動の盛り上がりが時の政府を動かした」事実を強調されました。それは今から74年前の1047年11月27日であり、主催は仙台・京都・大阪・神戸の協力会でした。

このように日本では民間運動が盛んであり特に京都は仙台に次ぐ二番目の協力会の立ち上げでした。

その後、京都ユネスコ協会は現在に至るまで地道な活動を続けてまいりました。今年も「総会」「理事会」の他に「ユネスコ活性委員会」などで運営を推進し、事業の拡充を図ってまいります。

特に、次世代育成:ESD×SDGsをもくろみ、「自然観察展」や「平和の鐘を鳴らそう」「芸術展」などに取り組みたいと思っております。

また、会員や一般市民に対する「英語講座」「日本語講座」「平和に関する講演会」「新入会員歓迎会」など盛り沢山の活動を計画しております。

昨年は7名の新入会員を迎えました。今年も「深い学び」「温かい友情」「楽しい会合」を合言葉に協会の活性化につながる活動を計画していきます。本年もよろしく願い申し上げます。

令和4年（2022年）1月29日

京都ユネスコ日本語教室

西川 昭 寛

日本語教室は12月11日（土）に開講しました。受講生はアラン鈴木さんでブラジルの27歳の青年です（写真左端）。来日して2年ですが2か月前に京都に移ってこられました。日本語での日常会には不便は無くお互いが理解し合えるレベルです。「て・に・を・は」を正しく使えるようになれば立派な日本語が話せるようになるでしょう。



教える側の日本語プロジェクトチームは近藤さん（写真右端）、新谷さん、大野さん、太田さん（写真右から2番目）、西川（洋子）そして私（写真中央）と留学生である Isi Holliday さん（写真左から2番目）の7名です。新谷さんは日本語指導の有資格者なので、素人のボランティアの私たちに教え方を指導していただけます。アランさんは英語が堪能なので日本語が話せる英国人の Isi さんがいてくれて大変助かります。

京都ユネスコ日本語教室が京都府の外郭団体である「京都にほんご Rings」に加盟したことで、これからも Rings を通じて日本語の教え方を研鑽していきます。

京都ユネスコ英語教室

前田 久 夫

京都ユネスコ協会は、第1・第3土曜日に事務局で2講座、毎週金曜日は「ひと、町、交流館」（河原町正面）で1講座開設しております。

土曜日の小学生の講座では、簡単な英語の歌に加えて、小学校で用いているテキストを使いながら、学習を進めています。受講生の T 君は最近学校で行われたリスニングテストで A+ を貰ったと、大変喜んでおりました。

大人の講座では、現在「道案内の英語」を学習中です。道案内は簡単なようで、実は案外難しいものです。例えば、「金閣寺は何番目のバス停ですか」の英語がサッと口をついて出てくる方は、英語の得意な方だと思います。

金曜日の講座では、嵯峨野の神社、仏閣について学習を進めています。具体的には、法輪寺、天龍寺、野宮神社、大河内山荘、常寂光寺などです。学習した内容を確認するため、また散策をしながら親睦を深めるために、昨年12月10日には受講生5人と法輪寺、天龍寺、野宮神社、常寂光寺を訪れました。

金曜日は定員一杯ですから募集はできませんが、土曜日は数名の空きがあります。興味をお持ちの方はHPをご覧ください。

第60回 京都ユネスコ 「自然観察展」

事務局



昨年はコロナ禍の為に中止した自然観察展を、今年は感染拡大防止策を取りながら実施しました。

会場は前回と同じ元山王小学校体育館ですが、体育館全面使用で倍の広さを取りました。

今年の開催を待っておられた学校もあり、小学校33校、中学校11校、小中一貫校2校から、小学生の作品156点、中学生の作品51点が集まりました。今年は混雑回避の為に各校の応募作品を7点に制限（前回までは10点）したので、応募校は前回とほぼ同じですが、応募作品数は3割方減りました。

今年は応募作品の部門を見直しました。SDGs部門の新設、動物部門と植物部門統合、科学工作部門の廃止により、「生物」「物理」「化学」「地学」「SDGs」の5部門としました。SDGs部門はSDGsの環境領域に絞り、身の回りの事柄から地球環境の変容にも目を向けたテーマまで、SDGsの目標に沿って観察・研究した作品を募りました。

10月28日に会員の他にシルバー人材センターより2名の応援を得て、会場設営をしました。

また、京都府私立小学校連合会の後援を得、理科部の先生方にお手伝い頂きました。

作品は、夏休み中に各自がテーマを見つけて取り組んだものですが、根気よく観察を続けたり、いろいろ試しながら研究を続けたりしたことが伝わってきます。

10月29日に京都市青少年科学センター専門主事の4名の先生方と私小連理科部の先生に作品の審査をしていただきました。一つ一つ丁寧に見ていただき、小学生の作品20点と中学生の作品11点が優秀作品として選ばれました。

10月30日、31日に全作品を展示しました。2日間で出品者や家族親族、学校関係者や一般の方等、約450名の参観者がありました。検温や手指消毒のご協力をお願いしましたが、幼児さえも何を求められているのか直ぐに理解しているのはこの時節を現しています。熱心にそして家族で楽しんで作品を見られている様子は、マスク着用を除けばこれまでと変わらないところでした。

広くなった会場は、蜜を避けるばかりでなく作品が見やすくなり、パネル展示もできました。この会場設定はスタッフ間でも好評でしたが、費用を考えると思案するところです。

表彰式はコロナ感染防止の観点から今年は中止し、表彰状と入賞記念品を11月下旬に入賞者の有る学校へ常任理事がお届けしました。

展示会には寺子屋募金箱を置き、2日間で6,252円の募金をいただきました。全額、日本ユネスコ協会連盟に寄贈します。

次世代育成の活動 ESD×SDGs 京都ユネスコ協会と同志社小学校の協働、1年の歩み

京都ユネスコ協会 江木 恵 瓊 子

SDGs は 2030 年を期限とする、世界で取り組む国際的な目標です。

(持続可能な世界を実現するための 17 の目標と 169 のターゲットで構成)

そして、ESD は持続可能な社会の担い手を育む教育で、ユネスコが中心となり、世界中で取り組まれています。



「教育が全ての SDGs の基礎」と言われる中、ユネスコは「質の高い教育をみんなに！」という目標 4 を中心ゴールに据え、平和な世界への貢献を目指し活動しています。

世界寺子屋運動や世界遺産活動・減災教育と並び、

次世代育成：ESD×SDGs に取り組むのも、その活動の 1 つです。

動機

私は、ユネスコスクール(小学校)の ESD×SDGs 実践を研究冊子で見ると、ユネスコスクール以外の子ども達にも「SDGs に取り組もう」という気持ちを持って欲しいという思いを抱いていました。一昨年の自然観察展で同志社小学校の理科主任の先生と出会いました。お話しをする中では、小学校での SDGs の取り組みは、コロナ禍下にあっては制限が多く進んでない状況が見られました。「この間に ESD の準備を！」と、ユネスコの ESD の思いを強くし、SDGs パスポートや ESD の資料を揃え、準備を進めていきました。

2021 年 3 月～4 月



春休みの準備期間を経て、京都ユネスコ協会は同志社小学校 5・6 年生と ESD×SDGs の取り組みを進める運びとなりました。

同志社小学校の理科専科と 5・6 年生の先生方は、研究会で年間計画を作成されました。

京都ユネスコ協会は日本ユネスコ協会から提供の「SDGs パスポート」を子ども達の ESD 学習をサポートすべく、内容を部分改訂し、印刷発注等、準備を進めました。

「SDGs パスポート」が出来上がったのが 4 月末の事でした。

2021 年 5 月末～6 月



コロナ緊急事態宣言が出され、ゴールデンウィーク明けに予定されていた「SDGs パスポート」を届ける日が延び延びになる状況がありました。

それでも、5 月中には何とか ESD×SDGs を開始したいという思いで調整を進め、クラス単位での分散授業案が決まりました。

そして、5 月 31 日(月)の 5・6・7 校時に、6 年生 3 クラスの子ども達に「SDGs パスポート」を手渡す 3 コマの出前授業が実現しました。

追いかけて6月10日(木)に、5年生3クラスの子ども達にも「SDG s パスポート」を手渡す出前授業3コマを行いました。また、5年生の出前授業は読売新聞の取材を受け、翌日6/11の朝刊に掲載されました。

この日、日本ユネスコ協会から、「SDG s 活動助成事業決定」の通知が届きました。



2021年8月 [同志社小学校6年生による平和の祈りの集い8/9]



6年生は11月の修学旅行で長崎・熊本方面に行くことになりました。事前の長崎平和学習を進める中で、京都ユネスコ協会の「平和の鐘を鳴らそう」という活動を知った6年生は、8月9日11時2分に原爆投下されたことに合わせ、宗教委員を中心に有志11名が同志社大学の礼拝堂に集い、平和の祈りを捧げました。宗教委員の進行で賛美歌を歌い黙祷を捧げました。宗教の先生から長崎原爆投下のお話が有り、平和を祈る意味を考えました。



この日、京都ユネスコ協会の相大二郎会長はビデオレターで参加し、「平和を祈る集い」へのお礼と、当時9歳の少年であった自身の戦争体験を語り、この集いを締め括りました。



終了後、参加の6年生はその場でSDG s パスポートに記録と感想を書き込み、京都ユネスコ協会員より参加認証シールを貼ってもらい、活動を終わりました。



夏休み中の事も有り、6年生の参加は11名と少なくなりましたが、Zoom参加者は多かったと聞いております。肅々として素晴らしいキリスト教礼拝形式の「平和を祈る集い」でした。* K B S 京都でニュースとして報道されたことも嬉しい事でした。

2021年9月10月11月

同志社小学校の理科の先生は

- ① 夏休みの自由研究発表会。(3~6年生)
- ② 海洋プラスチックについて考える学習討議。(5年生)
- ③ 岩倉川清掃活動にボランティア参加。(5年生)

担任協力の下、ESD×SDG s として実践し、SDG s パスポートへの記録を指導されました。



2021年10月12日



長崎・熊本方面への修学旅行を前に6年生の先生方から、世界遺産マイスター山本リチャール登眞(高1)さんのお話を6年生に聞かせたいとの要望が届けられました。協会から、リチャール登眞さんにESD×SDGs協働学習を進めている旨を話し、講演のお願いする中、彼の期末試験休みを使って、「世界遺産を通じて平和な世界をつくろう」という特別授業が実現しました。感謝あるのみでした。

6年生の修学旅行(長崎・熊本)の見どころが明確になったのは勿論ですが、ユネスコ世界遺産活動の平和への意義を知る6年生になってくれたことが嬉しい事でした。彼のメッセージ『歴史を知り文化を学ぶことは、自分を理解し相手のことも理解できる心を育む』が心に残る6年生でした。

2021年10月30・31日

京都ユネスコ協会主催の「第60回自然観察展」はSDGs部門を新設しての開催でした。SDGs部門の展示では、国連広報センターHPよりダウンロードしたSDGs資料を大型プリンターでプリントアウトし、来場者への啓発を図りました。

SDGs部門への出品作品は小・中学校合わせ42点を数えました。

同志社小学校6年生の夏休みの自由研究にはSDGsの環境領域の研究作品が多く、SDGs部門に5点の出品がありました。その内、3点がSDGs部門優秀賞を獲得しました。受賞作品の研究テーマは

「水不足と水質汚染」

「バイオプラスチックって、どうやって作るの？ どれぐらいでとけるの？」

「SDGsに取り組もう！食べられるお皿を作ろう！」です。

*小学生らしい独自のテーマで、夏休み中の長期にわたる実験観察の跡が見られました。



2021年12月～2022年2月

5年生は12月、アップル社協力の元、アプリの作成にチャレンジしました。「下学年にSDGsに関心を持ってもらい説明ができるアプリ」の作成です。6年生は1年間のSDGs学習をパスポートをもとに論文を書き、2月に一人一人が下級生の前で発表を行います。

当協会は5・6年生の成果を評価し、優秀作品に賞状を出します。

第77回「日本ユネスコ運動全国大会 in 大阪」

加藤 功治

昨年度コロナ感染防止の為に中止されました全国大会は近畿ユネスコ協会協議会の主官で12月5日に大阪でおこなわれました。会場は堺市の桃山教育学院大学のエレナホールで、近畿地方の方限定で160人が参加し、同時にYouTube（140人が視聴）による配信がおこなわれました。テーマは「学びを通して地域を振り返る」でした。



京都ユネスコ協会よりは相大二郎会長、前田久夫副会長、西川昭寛さん、山本クロディーヌ真理子さん、江木恵理子さん、吉田敦彦さん、アングス マグレガーさん、西之園晴夫さん、事務局長の加藤功治の9人が参加しました。

日程が本年から1日開催になりました。13時からの開会式の後、山中伸弥氏（京都大学IPS細胞研究所所長）のビデオメッセージが届けられ、神戸ユネスコ協会青年部（活動報告）と箕面ユネスコ協会（ネットワークで創る 支援活動と協働授業）の実践発表がありました。

14時20分から廣瀬忠子さん（芦屋ユネスコ協会名誉 未来へのバトン）と気仙沼から（東日本大震災から10年）のビデオメッセージが有りました。その後パネルディスカッションに移り、パネルディスカッションでは「誰ひとりとり残さない社会の構築」をテーマに安井裕司氏のコーディネートで播磨靖夫氏（障害者芸術の立場から）藤井睦子（コロナ対策・ハンデミック）中村浩也（スポーツ医学・人間科学）と異なる立場の人が話されました。

16時10分に閉会式をして終わりました。

次回は2022年11月26日（土）に千葉県木更津市において、1日開催で一昨年までのように会場参加のみで行われる予定です。

参加者のコメント

アングス マグレガー

私が一番気になったのは、このコメントです - “With Corona and After Corona” レジリエント（困難を克服して復興する）コミュニティを構築するためには、コロナ前と後の時代のギャップをどのように積極的に埋めていくかを地域のコミュニティグループが考えることが重要です。

西之園 晴夫

初めて全国大会に参加しました。最近のESDの動向を知りたいと期待していたのですが、その報告がなかったのが残念です。

西川 昭寛

これまで全国大会は郷土の紹介や踊りなどがあって2日間で行われていましたが、お祭り騒ぎがなくなって1日に短縮され、シンポジウム中心のすっきりした大会でした。各協会から活動発表があったのですが神戸の協会からはユネスコ活動とは言えない留学生の発表で長い時間が費やされた反面、京都ユネスコ協会の活動が発表できなかったことが残念でした。コロナ禍にあって今後ますますZOOMでの活動の重要性を感じました。

前田 久夫

限られた時間でしたが、パネルディスカッションでは内容豊かなプレゼンテーションがなされました。そのコーディネーターの安井裕司氏から「第1回ユネスコ運動全国大会」(於：日比谷公会堂)は仙台、京都、大阪、神戸ユネスコ協力が主催者であったとのご説明に感銘を受けました。

全国大会をハイブリッド形式で開催したのは、成功だったと思います。全国の方(世界中の方も)がご覧になれたこと、聴力に問題を抱えている者もYouTubeで後日視聴できたことなどが長所として直ぐに頭に浮かびました。

江木 恵瓊子

「誰一人取り残さない社会の構築」がテーマのパネルディスカッションで「たんぼぼの家」理事長：播磨靖夫氏は、「時代が変わってきている！ユネスコ憲章の砦って壁ですよね。これからは異なったものに橋を架ける事が大切！」と、サラリと言ったのけられました。

この播磨氏のメッセージは共感し合い問題解決に向かう活動を示唆し、ユネスコ活動への高い期待と捉えさせて頂きました。

加藤 功治

一日開催になったので、大会の時間が8時間から4時間になり、実践報告やパネルディスカッションにおいてももう少し深い内容が欲しかった。

私とミャンマーの出会い

日本ミャンマー豊友会 近藤 秀二

2006年、昔バックパッカーとして訪問したミャンマー（当時はビルマ）をもう一度訪ねたのです。世間知らずの一人旅の青年を、みなさん大変親切にもてなして下さいましたので、懐かしさにひかれて再訪したというのが正直なところです。

ところが再訪してみると40年前のビルマがそっくりそのまま残っていたのです。長い間軍による統治が行われてきたせいか、原材料の輸出収入だけで商工業というものはほとんど発展していませんでした。

ある孤児院を訪問した時の事です。二人の尼さんが150人ぐらいの孤児の面倒を見ていました。いろいろ話をお聞きして見ると、1ヵ月に15万円相当の日本円があれば、みんなを食べさせて行けるし、学校の文具代も出るということでした。もちろん周囲の人から現物でいろんな支援、例えば米や古着の寄付を受けられて、自家菜園で作ったものを食べるという生活です。

帰国してすぐに所属していた経営指針書を作る異業種交流会の仲間呼びかけてスタディツアーをするための同好会のようなものをつくり、年に2、3回出かけて行くようになりました。

あらためて日緬の交流史を紐解いて勉強してゆく中で、「インパール作戦」の戦跡などに行きあたり、たくさんのお話を教えられました。「失敗の本質」を知ること、学ぶことは日本人としてどうしても必要だという思いも強く浮かび上がってまいりました。当時は戦友の遺骨を埋葬するための訪緬団が途絶えがちになっておりましたが、それでも各地に慰霊塔が作られ、また遠い山野に子供たちのための学校や図書室等が作られておりました。

私たちが活動の中で、子供の教育、人づくりを中心に絞り込んでゆく過程があります。NPOに組織替えする際に、私たちのスローガンとして「日本とミャンマーの子供たちの未来のために」を活動理念、スローガンとして掲げるようになりました。2009年には認定NPO法人としても登録されました。

現在はシャン州のPAO族の青年たちのために職業訓練所を作っていますがコロナ下であることと、クーデターによるインフレの亢進で完成が若干伸びていますが、今年度末には研修棟も厨房・食堂も寄宿棟も完成するでしょう。

それまでは難民とならざるを得なかった皆さんに食料・医療の緊急支援に全力を挙げています。



無償の高等教育とスイスの職業陶冶

学習開発研究所 理事 西之園晴夫

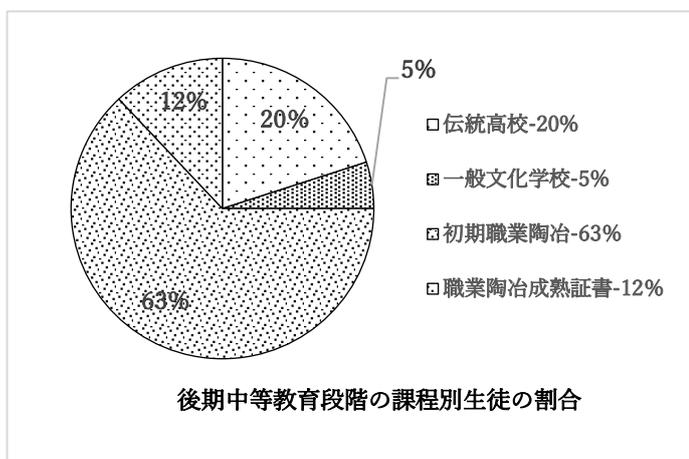
1966年12月に国連で「経済的、社会的及び文化的権利に関する国際規約」が決議されましたが、その第13条第2項cでつぎのように規定されています。

(c) 高等教育は、すべての適当な方法により、特に、無償教育の漸進的な導入により、能力に応じ、すべての者に対して均等に機会が与えられるものとする。



しかし、わが国は1979年に批准するときには高等教育の無償化は奨学金等で対処するのでこの条項には「拘束されない権利を留保する」という条件付きでした。世界的にこの高等教育問題に取り組み始めたのは1990年代になってからですが、わが国は2012年になって上記の留保条件を撤回する旨を国連に通告しました。

もともとヨーロッパ大陸では多くの国の大学の授業料は無料でしたが、無償の高等教育が課題になったのは高等教育の大衆化に対応するための施策だからです。スイスの例は、高等教育の大衆化を高等専門陶冶や職業陶冶としてとらえたことです。ここで陶冶という言葉はわが国でも一般陶冶と職業陶冶として教育研究で用いられてきた概念です。フランス語のformationは、動詞のformerが「形成する、研修する」の意味であり、se formerは「自己を形成する、修養を積む、教養(技術)を身につける」という意味で、職業陶冶とは「働くことを修業する」とも言えます。この陶冶という考え方で、無償の高等教育を構築するのがスイスの計画です。図の伝統高校が大学に進むコースで20%、職業陶冶は63%です。21世紀になって研究が活発化し、コロナ禍で遠隔学習を基盤とする職業陶冶が有利になりました。



今後の活動予定

4月 理事会
5月 総会
5月 出前授業 同志社小学校
7月 理事会
9月 常任理事会
10月 自然観察展
11月5日 近畿ブロックユネスコ活動研究会 舞鶴市
11月26日 ユネスコ運動全国大会 千葉県木更津市
2023年1月 新年初顔合わせ会

英語教室 毎月 第一第三土曜日 事務局において
毎週金曜日 ひと町交流館において
日本語教室 毎月 第二第四土曜日 事務局において

この他に講演会等の企画が出来れば良いと考えています。



〒601-8004 京都市南区東九条東山王町27 元京都市立山王小学校内
TEL/FAX 075-632-9925 E-mail kyoto@unesco.or.jp
(平日 13時30分~16時) URL <https://kyoto-unesco.jp/>